

あかしんぶん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP
半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職 —自分ドラマつくろう— (110) 岡田清治



■プロフィール

著者：岡田清治 (おかだ・せいじ)

1942年生まれ ジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)

著書に『高野山開創千二百年 いっぱいさん行状記』『心の遺言』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか』『リオンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX: 0569-34-7971 メール: takamitsu@akai-shinbunten.net



【写真】自分の顔に似た石仏はあるか(著者撮影)

姪の就職2

これに刺激を受けた京の遊女たちも多寄世に歌舞伎を演じた。ところが、風紀が乱れるというので寛永六年(一六二九年)女芸人の出演が全面禁止となるが、その後、十三歳十四歳の少年が演じる若衆歌舞伎となる。美少年による歌舞伎だが、男色ものホセキシヤアリス(ハ)が問題だと禁止になる。しかし大衆の歌舞伎に対する支持は強いため条件付きで認められた。野郎歌舞伎と呼ばれるもので、これが現在の歌舞伎に受け継がれていく。いまのような形ができるのは元禄時代、江戸、上方で発展する。江戸の市川團十郎が荒事、京都の坂田藤十郎が和事の芸をつづけた。歌舞伎の世界は宝塚歌劇団とは逆に完全に男の世界である。

戦後、上方歌舞伎は衰えた。このことについて片岡仁左衛門は著書「どうぞい、どうぞい」歌舞伎芸談西東の中で語っている。

「一は大阪の歌舞伎を支えていた堂島、船場、島の内の商人層が没落した。二は戦前は政治が東京、経済が大阪と力が二分していたのに、戦後はすべて東京中心になった。三は大阪の役者に子供が少なく、後継者がいない。大阪のお客には女房や子供がいると、人気にさわたつたからである。四は歌舞伎役者が所属している松竹での関西の力が弱くなったからだ。だからと言って、大阪の歌舞伎の発想、芸、演技、演出が否定されたとは思わない点を強調している」とはうれし。

しばらく物思いに小休止しているところ、る子が煎茶を入れた湯飲みと、和菓子添えて真三のところにやてきた。「少し、休憩されたらどうですか」

「そうだな」
「ロナウイリスが収まりそうではありませんね」
「やはり大都市での感染者が多いですね」
「名古屋も結構多いね」
「ウイルスをばらまくと自暴自棄に陥っていた男が、くなりましたね」

「持病もあつたので、制御不能になったのだからね。治療薬がないに先が見えないと、人間はその弱みを吐き出すのだから」
「どうですか」

「オリンピックも来年に延期になったぞうだね」
「来年夏までには開催すると政府は言っていますが、専門医の多くの方はワクチンや治療薬のめぐりついていないに、難しいと言っていますね」

「政府はその時はまた再考するのだから」
「そんなことなら、中止という声も出ないのだから」
「中止は(一〇〇%)も考えないのだから」

「それにしても、自宅で自粛はつらいですね」
「感染爆発になれば、都市封鎖が起きるね」
「日本では封鎖しても海外のように禁止はできないですね」
「日本では先の戦争で人権を無視して強制的なことをやった後遺症が残っているのだから、どうしても消極的になるんだよ」

「すれにしましても、早く収束してほしいですね」
「真三は裕美の娘、舞がインドでどうしているか、心配しているのだから、思いめぐらしていた。インドはカーブ制度で格差社会だから医療機関も不足しているのだから、舞のいるムンバイも都市封鎖を伝えている。彼女からの便もしばらくない。」

「な、舞さんどうしているのだから」

「どういふ、その後の様子を伝えできませんね」

「しばらく、帰国できないのだから」
「世界中が鎖国のように入国を拒否しているから難しいでしょう」

「裕美さんのところには連絡があるかもしれないな」
「裕美さんも心配しているでしょうね」
「俺もいま、そのことを考えていたのだ」
「裕美さんから連絡あるまで待つしかないな」
「どうですか」

「真三はお茶を飲み切ったところで、再び原稿を読み始めた。」

関西、とくに大阪が文化不毛の地となったことから、なづける、柳原も同感であった。昭和五十三年には、財界、労働界、文化人、銀行界が一体となって関西歌舞伎を育てる会が結成され、関西出身の役者を元気づけていた。

片桐は暗記が得意である。日本の天皇や中国の王朝の名前を時代順に立て板に水を流すように言いつけてたりする。だから三〇ページ程度の台詞を憶えることに、そう苦にならなかった。ところが、練習を始めるのと暗記することが苦痛になってくる。一旦、憶えても次の日になると忘れていく。(暗記ものは頭の表層部だけで憶えてもタヌで、頭脳の奥まで詰め込まないとすぐ忘れる)と片桐は思っている。

本番の二日前、出演者全員でリハールを行う。この最後の稽古が総演である。場所は花見小路四条にある祇園甲部歌舞練場があられる。これまでの朝、夜の稽古は個人あるいはグループで行っていた。全員による舞台稽古はこれが初めてである。片桐は緊張のため全く台詞が出てない。「どなしはりました」

演技指導に当たっている片岡の子息兄弟の三男の片岡孝夫が声をかける。
「……」
「まだ、二日間ありますから、きつと憶えられますよ」

片桐は全身汗だくになっている。舞台の端で練習を見つめる澤子も心配になっている。(あの時、思い切つて断るべきだったかもしれない……)

歌舞練場からの帰り際、片桐は片岡仁左衛門に弟子の一人を、目、自分に負してほしいと頼み込んでいた。そのため練習のスケジュールがきつちり決まっていたので、片桐の都合だけに合わせるのもどうかと思われたが、仁左衛門は快く承知した。

二十六日の朝、小雪が舞っている。京の底冷えが一段と厳しい。それにひきかえ、南座の楽屋は人であつた返しムンンしている。出演者の家族、親類をはじめ、全社関係者、得意先の人、さらに祇園、先斗町、上七軒のきれいな花東を持つて押し寄せてくる。ひいき筋の社長たちの応援である。化粧を終えた出演者と、一緒に写真撮る。京の土、同が南座に集合しての芸芸会のようなものだ。楽屋は大変な混雑ぶりである。

この日は京都が狂都になるのである。多忙と言われる京の名士たちが、一番せわしい時期に、約一ヶ月間、猛稽古して大芸芸会を開くことなどは、日本では京都ぐらいであろう。

京は魔障のようなものが潜んでいるのではないかと、ピンスネ戦士たちもこの街に住みつく、戦闘が鈍をいわれる。隣の大阪では、南座の楽屋の雰囲気はないと、片桐も、瞬別世界にいつまふな錯覚に陥る。

開演三〇分前、妻の澤子は精神安定剤とトップ水を手

渡す。片桐はもう一度、台詞を復唱しようとするが、客が次から次へとあいついでくる。

ついに幕が上がった。不思議なことに、稽古の時、あんなにどろついた台詞が、次から次へ出てくる。片桐は完全に政岡になりきっていた。

「待っていました。片桐はん……」
観客から期待と励まし声がかかる。観客席には見覚えの顔が多い。ほとんどが同伴か、家族連れである。

日本の男性は女房と二人づれで外出するのが苦手である。もうとも新人類はそうでもない。ところが、京に住む男性は女房と歩出くことわりと平気である。クラブのママや舞子、芸子とも公然と歩いている。妙に臆するところがない。花柳界やクラブの女性を対等な扱いをしているのである。初めて京都に来た者には驚きである。それでも、さすがに最近では「フォーカス」や「フライング」などの写真雑誌に怯える財界人も少なくない。とくにトップの周辺の人間が気をもんでいる。

京の夜も他所者には解せない。一見の客が入れない店が多いのだ。東京でも名古屋でも一見の客が断られることはある。しかし、大抵は現金払いにすれば入れてくれる。ところが、京ではいくら現金を積んでも入れてくれない店がある。そういう店が繁盛しているかといふは、そうではないのだが……

八坂神社の南側の坂をのぼり、中村橋の手前で右折してしばらく行くと山手側に石塀小路と名付けた通りがある。石塀の石塀の小路だから昼間歩いても風情がある。夜はけげばし、イサオは一切なく、一見、何屋かわからない黒塗で掛かれた屋号が白色電光石火で浮き上がる。屋敷風の邸宅もあれば料亭、クラブも並んでいる。中にはクラブといつても、知っている常連組しか見分けのつかない小さな看板が掛かっている。庭の離れのようなところに、堀こたゝ式のカウンターを設け、草芸煮たという七〇歳を超えた姉さんが一人で接待をとめる。

そんなところに、地方はもとより滋賀県の知事や京大の教授ら、そうぞうたる名士が集まってくる。このようなサロン風のクラブが京都には結構、多い。客の紹介でもなければ、見では入れない。

柳原は千代秋の暮が降りると、すぐ席を立ち外に出た。朝からの小雪がまだ降り続けている。雪で白くたな、花見小路をぼんぼりの街灯が一段と風情を添える。その花見小路の西側通りにある、行きつけのクラブに立ち寄った。花見小路の両側にはお茶屋が並んでいる。玄關の表札を見ても、所属する芸子、舞子の名前がかかっていることに気づく。このお茶屋にも同じまじりした、バーがあつて、綺麗どころが時間待ちで飲んでる。

「今日、初めて宴席に出る子なんです」
なじみの客には気軽に紹介してくれる。クラブには、まだ時間が早いのか、一組の客しかいない。柳原は華やかな花見小路と対照的ななにか、悲しい感じの西側の通りが好きた。町屋風の古い建物で、格子戸を開けて中に入ると、薄暗い土間があり、その奥がバーになっている。柳原はカウンターでウイスキーの水割り注文した。

柳原は素人顔見世を覗いて片桐という男に一層関心をもつようになつた。考えてみると、地方紙と地方の金融機関は同じような立場にある。どちらの経営者も地元と密着してないと成り立たないところがある。なにせ地元最優先でないうまくいかないことを意味している。それだけに地元のことを十分、理解していないと失敗する。

私の出会った作品 (48) 杉本武之

〔四十〕日本映画(その9)
 ◎内田吐夢について
 内田吐夢(1898-1970)という映画監督は不思議な魅力を持った人物です。

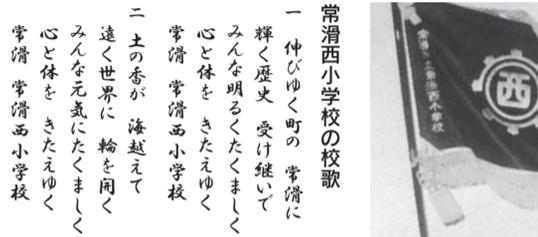
12歳後輩の黒澤明監督はこう述べています。

「内田監督はものすごく面白い経歴の持ち主で、ホームレスなんかもやたらしい俳優もやっていた。大作も良けれど、僕は最初の方の作品が好きだね、『限りなき前進』とかね。内田さんの映画人生は波瀾万丈だった。日本での映画製作を諦めて満州に渡り、甘粕正彦の自決に立ち会い、中国風の姿で帰国して、何があったのか定かじゃないけど、彼の映画に対する執着の凄さが作品に出てくる。具合が悪くても、這って現場に行った。子供の成長や草の色の変化が気になるから。まさに映画に人生を捧げた人と言える。」



常滑西小学校 常滑東小学校

この指とまれ (291) 氏原朝信
 昭和55年度常滑市立常滑西小学校開校
 昭和55年4月1日、旧常滑小学校の地に常滑西小学校が開校しました。同時に常滑東小学校は、常滑中学校の地に開校したのです。
 4月3日に入学式(入学児童176名)が行われ、4日に始業式と開校式が行われました。児童数(4月10日現在)は1,024名で各学年4学級と特殊学級1学級計25学級で常滑西小学校がスタートしたのです。児童を支える職員は教師31名・県事務1名・市事務1名・用務員1名・給食パート3名です。
 昭和56年11月、校旗樹立と校歌制定をしました。



常滑西小学校の校旗

常滑西小学校の校歌
 一 仲よく町の 常滑に
 輝く歴史 受け継いで
 みんな明るくたくましく
 心と体を きたえゆく
 常滑 常滑西小学校
 二 土の香が 溢れ越えて
 遠く世界に 輪を回す
 みんな元気にたくましく
 心と体を きたえゆく
 常滑 常滑西小学校

料理研究家 長澤晶子のSPEED★COOKING!

簡単! 丸ごと玉ねぎスープ

旬の新玉ねぎをたっぷりいただくスープです。

- 【4人分】
- ① 新玉ねぎ 中玉(約90g).....4個
皮を剥き、頭と根を切り落とし水洗いする。水洗いした玉ねぎをラップで包む。包み口の上は、水分がこぼれないようにしっかりと閉じる。
 - ② 固形スープの素.....2個
 - ③ 水.....600cc
 - ④ 塩.....少々
 - ⑤ 粗挽き黒こしょう.....少々



- 【作り方】
- ① 耐熱皿に包み口を上にした①を並べ、レンジで8~10分加熱。玉ねぎの水分が出てくるのでヤケドに注意しながら側面を揉み、芯まで火が通っていればOK!!
 - ② 鍋に②を入れ、沸騰させ③で調味する。
 - ③ スープ皿に①を置き、②を注ぎ④を適量ふりかければ完成。

- ◎常滑市民文化会館
 展示室
 あなたのギャラリー
 ▼常滑地区伝統文化いけばな親子教室(二十七日(土)午前九時半~同十一時 第一展示室 問合せ 常滑地区伝統文化いけばな親子教室 ☎052-1321-8985(伊藤)

- ◎常滑市立図書館
 ▼常滑市立図書館
 ▼常柳会展(川柳・二日(火)~一日(木))
 ▼山方書画作品展(児童・生徒の書画作品・十二日(金)~二十一日(日))
 ▼グループ沙羅水彩画展(水彩画)・二十三日(火)~七月三日(金)

- ◎こなめ陶の森資料館
 ▼リニアのため休館(二〇二二年秋まで)
 ◎こなめ陶の森 陶芸研究所
 ▼企画展「瀧田家の廻船文書」と「江戸のキビシヨ」展(七月二十六日(日) 午前九時~午後五時 無料)
 ◎南陵公民館
 ▼南陵デイサービスセンター・古場デイサービスセンター作品展(創作物、習字、ぬり絵、手芸などの展示)・三日(水)~二十八日(日) 午前九時~午後九時半 無料
 ◎知多市子ども未来館
 ▼工作「たなばたかざり」・二日(火)~三十日(火) 午前九時~午後五時 内容 色画用紙を使って春から夏に使う、おしゃれな帽子を作ります。対象 どの

内田吐夢(本名・常次郎)は、明治31年(1898)4月26日に岡山市内の和菓子製造業の3男として生まれた。15歳の時に父が死んだ。跡を継いだ長兄は、家業に見切りをつけ、肥料製造販売業を始めた。高等小学校最後の年、作文の時間に「祝辞」を書かされたが、彼は「弔辞」を書いた。教師を侮辱したという理由で退学を命じられた。長兄の知人が始めた教会の日曜学校へ通った。教室にピアノが置かれていた。横浜の「西川楽器店」から派遣されてきた調律師の青年と出会った。そしてその青年に連れられて横浜に行き、「西川オルガンピアノ製造所」で働くことになった。

大正8年(1919)、徴兵検査のために岡山に戻る。甲種合格。東京九段の陸軍近衛連隊に入隊。間もなく盲腸炎に罹り入院。手術後の経過が良くなく、そのまま除隊して帰郷。翌日、母親が死



『飢餓海峡』

許可を得た。間もなく大正活映が解散した。その後、吐夢は京都の待合所にあった「マキノ教育映画撮影所」に行き、調律師部門で働く。次第に仕事への情熱を失い、グレン隊の仲間に入った。仲間たちから「トム」と呼ばれた。その時の

大正15年(1926)5月、日活京都大將軍の撮影所から入社の話がもたらされた。翌年の昭和2年、早くも夢が叶い、第一回作品「競争進作家の谷崎潤一郎と出会い、その「大正活映撮影所」で働く

した傾向映画『生ける人形』、剣豪大スターの大内傳次郎主演の時代劇『討つて選んで』、尾崎士郎原作の『人生劇場』、傑作として名高い『裸の町』、『限りなき前進』、製作に2年半を費やした戦前の代表作『土』などを発表した。

彼は満州映画協会で映画を作りたかった。そして、満州に渡った。理事長の甘粕に会った。甘粕は、関東大震災直後の混乱に乗じて無政府主義者の大杉栄と妻の伊藤野枝と甥の3人を絞殺した人物だった。吐夢は満映参与の資格を与えられた。昭和20年8月15日、日本は無条件降伏した。8月20日午前6時、理事長室から異様なうめき声が聞こえた。吐夢が扉を開けると、白い粉(青酸カリ)を飲んだ甘粕が苦しんでいた。吐夢は馬乗りになって、胸を逆撫でた。口から泡を吐き続けて甘粕は死んだ。

10年振り中国から帰還した吐夢は、昭和30年、再起第一作品として片岡千恵蔵主演の時代劇『血槍富士』を作った。その後、『黒田騒動』『逆襲獄門』『暴れん坊街道』『大菩薩峠』三部作、『どたんば』『森と湖のまわり』『浪花の恋物語』、『宮本武蔵』五部作、『飢餓海峡』『人生劇場』『飛車角と吉良常』『真剣勝負』などを作った。

1970年8月7日、偉大な映画監督・内田吐夢は死んだ。財布の中

に2、340円入っていた。他に預金通帳もなく、これが彼の全財産だった。

◎『飢餓海峡』
 私は、戦前の『限りなき前進』や『土』などを観ていません。中国から帰ってきてから作られた『血槍富士』から遺作の『真剣勝負』までの作品は殆ど観ていません。特に好きな作品は『血槍富士』と『宮本武蔵』五部作と『飢餓海峡』です。

彼の代表作は昭和39年(1964)に公開された水上勉原作の『飢餓海峡』です。昭和22年9月、大型台風が北海道を襲った。網走刑務所から仮釈放された二人の囚人が、たまたま知り合った大飼多吉(三國連太郎)を張番に立たせ、岩内町の質屋に侵入し、家人を殺して大金を奪い、証拠を隠蔽するために放火した。三人は汽車で函館に逃げた。同じ頃、函館港を出港したばかりの青函連絡船が港内で沈没した。三人は混乱に乗じて漁師の舟を奪って青森県の下北半島に向かった。途中、囚人の一人が金を独り占めしようとして仲間を撲殺し、大飼も殺そうとしたが抵抗され逆に殺される。大飼は二人の死体を海中に捨て、舟を漕いで仏ヶ浦に着いた。そこから陸路、大湊に向かった。そこら陸路、大湊に向かった。そのごの娼家で人の良い娼婦・杉戸八重(左幸子)に会った。親切にされたお礼として彼女に多額の金を与えた。

一方、連絡船沈没にともなう死体引揚作業に従事していた函館警察は、乗客名簿に記載されていない二人の男の死体に疑念を持った。連絡船とは無関係な死体だと信じた弓坂刑事(伴淳三郎)は、丹念な調査の結果、大湊の娼婦・八重を突き止めた。しかし、彼女は何も語らうとしなかった。八重はもうと嫁ごうとして東京に出た。10年後、東京の遊郭で働いていた八重は、恩人の大飼が樽見京一郎と名前を変えて、舞鶴市で成功者になっていることを新聞で知った。一目会って、金のお礼も述べたいと思ひ、舞鶴に出掛けた。だが、大飼は自分の過去を知られる恐怖から彼女を絞殺し、心中事件に見せかけたために自分の書生までも殺して、二人の死体を海に捨てた。

とする舞鶴警察は、樽見こと大飼に疑念を感じ始めた。定年後、北海道の刑務所で看守をしている元刑事の弓坂を招き、大飼の取り調べを始めた。実地検証のために、大飼は弓坂や舞鶴警察の者たちと北海道へ渡ることになった。青函連絡船が下北半島の仏ヶ浦のそばを進む時、死んだ八重のために花束を投げると同時に自らも身を投じて死んだ。一海の底から湧いてくるように、御詠歌を思わせる地蔵和讃の重々しいメロディが白い航跡にかぶさってしばらく画面に流れる。音楽は富田勲。

三國連太郎も左幸子も伴淳三郎も、入魂の演技を見せ、実に見事でした。

◎杉本武之プロフィール
 1939年、碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大学院で学ぶ。趣味、読書と競馬。

少人数での家族葬専用ホール
大阪屋リビング 常滑
 誠意を込めて安心のお手伝い
大阪屋葬祭
 常滑ホール | 鬼崎ホール | 阿久比ホール
 TEL0569-35-4949
 ●わーくわーい知多協力店 ●自営労働者職員労働組合協力店

知多の新鮮たまご
発酵ケイフン
 (有)知多エッグ
 知多郡武豊二ツ峯380
 TEL0569-73-6341

